

カナダ トロントの裁判所



オールド・シティ・ホール

現在は、オンタリオ州裁判所として使用されている。

私が長期在外研究で滞在させていただいたのは、2019年、NBAで優勝したトロント・ラプターズの本拠地がある、カナダ、オンタリオ州にあるトロント市です。トロントは、人口の約半分が他国出身で(2011年国勢調査)、チャイナタウン、グreekタウンなど、たくさんの〇〇タウンがあるような街です。母国語だって、文化だって、好みだって、それぞれ。英語が上手く話せない人にも寛容です。そんなトロントの中心部にある、一つの裁判所と、そこで行われている特殊な刑事裁判手続をご紹介します。



オールド・シティ・ホール 内観

※ドアーズ・オープンという公開イベント時に撮影

トロントネオンの横にあるオールド・シティ・ホールと呼ばれるその建物は、1899年に建設された、大きな時計台のあるロマネスク様式の建物で、写真撮影スポットとしても人気の場所です。昔はトロントの市庁舎として使用されていましたが、隣の新しい市庁舎にその機能は移されたため、現在は刑事事件を扱う州裁判所として使用されています。

この建物の一室では、毎週火曜日・木曜日の午後、ドラッグトリートメントコートと呼ばれる刑事司法手続が行われています。この手続では、犯罪を認めている被告人に対して、判決まで保釈した上で、特別なプログラムを受けることを義務付けています。対象となる被告人は、薬物中毒に陥っており、かつ、薬物所持の罪や軽微な財産犯などの非暴力的な罪に問われている被告人です。被告人は、薬物治療プログラムを受けたり、住宅支援や就労支援などの生活環境改善のためのサービスを受けたりしますが、そのプログラムの受講状況などについて、定期的に裁判所に出頭して、報告することになります。法廷が始まると、被告人は、裁判官から(処方されている薬を含めて)薬物の使用状況を尋ねられます。そして、薬物を使用した場合に

は、何回、どの薬物を使用したかを被告人は答えます。日本では、保釈中に薬物を使用すれば、別の犯罪として処罰の対象となり、その犯罪を理由に、保釈されていた被告人が再び身柄拘束されてしまうことが多くあります。しかし、トロントのプログラムでは、尿検査できちんと尿を提出し、正直に申告すれば、薬物を摂取してしまったことによって保釈が取り消されることはなく、また次回頑張りましょう、となるのです。他方で、薬物を使用せずに過ごせたと被告人が答えた場合には、法廷にいる全員（裁判官、検察官、弁護士、他の被告人など）から拍手で賞賛されます。この成功体験によって、立ち直りを進めようというのがトロントのドラッグトリートメントコートの考え方だそうです。このドラッグトリートメントコートにかかる費用は、州法務省から主に支出されているようですが、被告人が刑務所に入所した場合にかかる費用に比べ、少ない費用でプログラムを受講させることができている、との報告もなされています。

カナダには、この他にも、特殊な刑事裁判手続として、精神的な病気を持っている被告人のためのメンタルヘルスコート、カナダ先住民の被告人のためのアボリジナルコート、家庭内暴力事件を扱うドメスティックバイオレンスコートがあります。それぞれ、犯罪の背景に自分の意思だけではなかなか抜け出せない困難を抱えているため、刑務所に入っても更生できず、何度も犯罪を繰り返してしまうような被告人を対象としています。そんな被告人に対して、より適切な治療や指導、環境調整等を行うことで、犯罪を防ぐとともに、働き手となって税金を納めてもらい、地域に貢献してもらうことが、より社会全体の利益に繋がると考えられているようです。

私はトロントに滞在中、ワーキングホリデーなどで滞在していた日本人の友人を数人、裁判傍聴に案内したことがありました。建築物の見学や日常会話以外の現地の言語の勉強にもなりますので、海外で長期滞在されるような折には、裁判傍聴をしてみたいはいかがでしょうか。

（神戸地方裁判所姫路支部判事補 須藤晴菜）

